

氏名	庄 達 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 862 号
学位授与の日付	昭和52年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	乳癌と Gonadal Hormone の関連性に関する研究 第 1 編 乳癌ラットの Gonadal Hormone について 第 2 編 人乳癌の Gonadal Hormone について
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 関場 香 教授 大藤 眞

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編 乳癌ラットの Gonadal Hormone について

DMBA誘発ラット乳癌の血清，組織中の gonadotropin を Radioimmunoassay 法で測定した。DMBA 誘発ラット乳癌の血清中，組織中の gonadotropin はその未処置群，卵巣剔除群，副腎剔除群と対照群の，その間に量的に有意の差はなかった。両側卵巣，副腎剔除した後 LH-releasing hormone 投与後の Luteinizing hormone は estradiol 投与群で投与しないものより著明に上昇する。¹²⁵I-LH, FSH の腹腔内投与による臓器分布は腎，肝に高くみられ，DMBA乳癌中にも卵巣と同じ量の取り込みがみられる。

第 2 編 人乳癌の Gonadal Hormone について

人乳癌の血清中の gonadotropin を Radioimmunoassay 法で測定した。

乳癌患者の Luteinizing hormone, follicle stimulating hormone は閉経前後，卵巣剔除，副腎剔除とともに対照者より高値となる。進行，再発乳癌により両側副腎剔除後の血清 LH, FSH の経日的変動は術直後より 7 日目まで急激に上昇し，術後 1 ヶ月まで上昇する。LH-releasing hormone を投与した乳癌患者の血清 FSH の上昇は対照に比べ，ゆるやかであり，2 時間値までに peak を持たず，遷延化の傾向にある。

論文審査の結果の要旨

本研究は乳癌と Gonadal Hormone の関連性について、実験的ならびに臨床的に研究したものであるが、これまで十分確立されていなかったこの分野について、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると考ええる。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると考ええる。